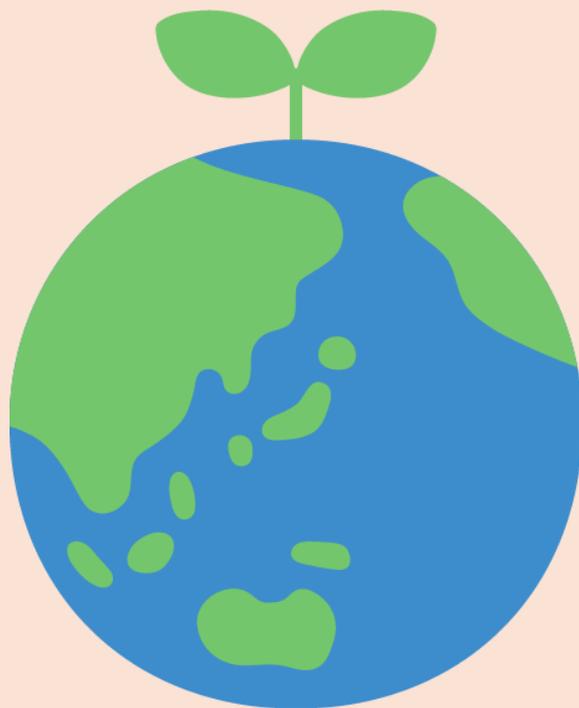


# みんなの環境 わたしたちの実践

本実践事例集は、各学校における環境教育の一層の推進を目指し、県内の優れた実践を紹介するものです。  
掲載校は、第18回ぐんぎん財団環境教育賞において最優秀賞に選ばれた学校です。

ぐんぎん財団環境教育賞は、群馬県環境教育賞(平成5~19年度)を引き継ぐ形で、平成20年度から実施されているものです。



## 実践事例

### 1 小学校における実践

太田市立沢野中央小学校 「みんなえがおで！たのしくエコ活動！」

### 2 中学校における実践

群馬県立伊勢崎特別支援学校 「エコ園芸班  
～環境のために できることを やってみよう～」  
(中学部)

### 3 高等学校における実践

群馬県立尾瀬高等学校 「地元地域の小・中学生とともに  
自然観察や環境学習をする活動」

## 小学校における実践事例

### 太田市立沢野中央小学校

#### 1 活動名「みんなえがおで！たのしくエコ活動！」

#### 2 環境教育としてのねらい

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）において、環境問題がその重要な柱の一つとなっています。本校の環境教育は、児童が各教科や総合的な学習の時間等で学んだり探究したりする中で地球環境の大切さを知り、環境に優しい取組を行うことを通して、環境保全への意識や実践力を高めることをねらいとしています。学校全体で取り組むために4つの環境行動を設定し、新たな特別な活動ではなく、児童が自分たちでできる活動に取り組んでいます。

#### <沢野中央小学校の環境行動>

わたしたちは、かけがえのない地球を守るため、次のことを進んで行います。

- 1 電気や水のむだづかいをやめます
- 2 紙を節約します
- 3 ゴミを減らし、リサイクルに心がけます
- 4 環境について学んだことを、毎日の生活の中で実践します

#### 3 学校及び地域の環境の状況

本校は太田市のやや南東から南側エリアに位置し、創立22周年を迎えた比較的新しい学校です。学校の周りには田園が広がり、一年を通じて風景の変化から季節を感じることができます。また、地域の協力を得て児童が稲作体験やミカン狩り体験等を行うことのできる環境が整っています。校庭は児童数約350名に対して非常に広く、校庭の周囲や中庭に様々な樹木が植えられています。また、草が生え、様々な生き物の観察を行うことができます。3年生の理科の学習では、自分の木を決めて一年間継続して観察する学習を行っており、無花果や柿が人気です。児童が生活の中で自然に親しめる環境となっています。

#### 4 活動の内容

##### 1) 教室でのエコ活動

本校の教室には、ゴミを入れるためのゴミ箱、紙を入れるためのリサイクル用の箱と袋の3つが常備されています。リサイクル用の箱には大きな紙を入れて、袋には紙の切れ端等、小さな紙を入れていきます。児童は、授業や様々な活動で出た紙について、リサイクルできるかどうか考えてリサイクル用の箱または袋を選んで入れています。

リサイクルできない物はゴミ箱に入れています。ゴミ箱には新聞紙で作った紙袋、リサイクル用の箱は再利用の段ボール箱、リサイクル用の袋は再利用の紙袋を



利用しています。児童や教職員は日々、当たり前のように捨てる物を分別して、紙の節約や大切に使うことを実践しています。これらの児童や教職員の行動は、数年間継続してきたことで身に付いたものです。

## 2) 環境美化委員によるエコ活動

### ○みんなで学ぶ全校集会

6月に5年生・6年生の環境美化委員が企画して、全校集会を行いました。発表内容は以下のとおりです。

「わたしたちにできるエコ活動が地球に良い影響を与えること」(エコ活動の意義)

「どんなことができるか」(エコ活動の方法)

- ・教室を出るときは電気を消す。
- ・水を出しっぱなしにしない。コップに水をくんで歯を磨く。
- ・物を大切にし、再利用する。
- ・文房具は再生紙のノートやエコマークがついた物を使用する。
- ・給食は好き嫌いをせず、残さない。量を減らす。



児童は真剣に耳を傾けて発表を聞いていました。教職員から伝えるのではなく、環境美化委員会の児童が伝えることで、聞いている児童にとって身近なエコ活動として啓発されました。

### ○各教室におけるリサイクルの推進

各教室のゴミ箱に入れる新聞紙で作った紙袋の作成やリサイクル用の箱や袋の準備をしています。各教室で集まったリサイクルできる大きな紙や切れ端を毎月委員会活動の時間に集めてまとめ、リサイクル業者に渡す準備をします。併せて各家庭から回収している牛乳パックや段ボールも整えています。

### ○環境について知る壁面掲示

全校児童が通る廊下の壁面に、環境についての情報を掲示しています。「地球温暖化による影響」、「各学年が育てている植物について学習したことや写真」「水道・用紙・電力・燃料の月別使用量やゴミの月別排出量のグラフ」等を、毎月更新して、常時見えるように掲示しています。この掲示を通る際に、児童から「ごみが減っている」「使う水の量が6月に増えた」などと、つぶやく声が聞こえてきました。

## 3) 家庭や地域と連携したエコ活動

### ○段ボール、牛乳パック、アルミ缶の資源回収

学校の敷地内に段ボール、アルミ缶の回収場所、校舎内に牛乳パックの回収場所を設置し、ご家庭や地域の方が常時エコ活動に協力できるようにしています。ご家庭だけでなく地域の学童や病院等の施設も協力してくれます。また、児童も安全に運べる量の牛乳パック等を持ってきています。資源回収はリサイクルの一環として取り組み、リサイクル業者へ渡した際の収益金は、教育活動に活用しています。

## ○学期末清掃活動ボランティア

学期末の清掃活動では、児童と一緒に校内を清掃してくださるボランティアを募集しています。PTAを中心に地域在住の祖父母にまで広がり、一緒に清掃活動を行っています。普段、担任と児童だけでは手の届かない所をきれいにできるので、環境美化につながっています。また、清掃をする中で、バケツを使うことは水の節約につながることで、雑巾の絞り方などをボランティアの方が児童に教えてくださることもあり、児童にとっても有意義な時間になっています。

## 5 成果と課題

### 1) 成果

○ 各教科等での学習において環境について学んでいる児童は、環境を守る大切さを理解していても、実際に行動できない様子がみられました。「沢野中央小学校の環境行動」を踏まえた様々なエコ活動に継続して取り組むことにより、児童が自分たちにできることを考え、環境保全への意識を高め、実践につながるが増えてきました。特に、環境美化委員会の児童による集会や壁面掲示による啓発活動は、環境問題、環境保全の意義や具体的な方法等について知ることができ、学習と関連させて理解し、実践につなげることができたと考えます。さらに、継続して取り組むことで、日々のエコ活動への意識が、生活の中に何気ない行動、自然な行動として現れるようになりました。環境美化委員だけでなく、主体的に身近な環境保全に取り組む児童の様子がみられました。

○ 家庭や地域と連携した資源回収や清掃活動を行うことで、家庭や地域にもエコ活動や環境美化活動が環境保全につながっていることを知っていただく機会になっています。学校アンケート「学校ではエコ活動に取り組んでいます。ご家庭でもエコ活動（電気や水を大切に使う・ゴミの分別・リサイクル等）に取り組んでいますか。」という項目では82%の保護者と児童が「よくあてはまる・ややあてはまる」と回答していました。多くの家庭で学んだことを生かしていることがわかりました。

### 2) 課題

○ 持続可能で主体的な環境保全活動にする必要があります。現在、継続して学校全体で取り組んできたエコ活動を、今後も継続していくことが大切です。更に各教科等での学習と関連させてエコ活動に取り組めるように、「環境を守るために自分たちにできること」を考える機会を、学習や環境美化委員会の啓発活動で増やし、児童一人一人が自分事として実践できるようにしていくことが必要だと考えています。

○ 「みんなえがおで！たのしくエコ活動！」の「みんな」に家庭や地域の方々にも入っていただき、更に連携を図る必要があります。児童の校内での取組が、家庭や地域にも広がるように、ブログや集まる場で学校の取組を更に知らせていくことが大切です。知っていただくことで、学校だけでは取り組めない活動へのご協力をいただき、学校・家庭・地域の連携を充実させて、より環境教育を推進していきたいと考えています。

## 中学校における実践事例

### 群馬県立伊勢崎特別支援学校（中学部）

#### 1 活動名「エコ園芸班 ～環境のために できることを やってみよう～」

#### 2 環境教育としてのねらい

本校は、小学部と中学部を有する特別支援学校です。中学部では、生徒が実際に作業を経験する中で家庭生活や社会生活に必要な知識・技能を会得することを目的として、作業学習を行っています。「紙工班」「木工班」「エコ園芸班」「手芸班」「工芸班」の5つの班に分かれ、学年を縦割りにしたグループで活動しています。その中で「エコ園芸班」では、園芸や花を使った小物作り、空き缶のリサイクルに取り組んでいます。職業教育としてのねらいを主としていますが、土の再生や花の栽培、リサイクル作業を通じ、限りある資源を大切にしようとする心を育てることに取り組んでいます。机上の学習だけでは環境について理解することが難しい子どもたちが、実際の体験の中で「自分ができること」について理解を深め、生活の中で物を大事に使うなど、自分事として捉えることができるように学習を計画しています。

#### 3 学校および地域の環境の状況

本校は、伊勢崎市の工場と住宅地が点在するエリアに立地しています。学校周辺は畑や田んぼの他、徒歩圏内に公園も多くあります。公園は、地域の方が整えてくださっているため、春には花を、秋には木の実を探しに行くなど、季節毎の自然を楽しんでいます。

校舎は平屋建てで、すべての教室から中庭や花壇が見え、全学年の児童生徒が花や野菜を育てる活動をするなど、植物にふれあいやすい環境にあるため、生徒にとって自然がとても身近になっています。校庭には本校のシンボルである「青桐」の他、松や桜、けやき、クヌギやコナラなどがあり、季節毎に様々な景色を見せてくれます。また、校庭にある築山は天然の芝生を養生しており、柔らかい踏み心地が魅力的で、児童生徒の憩いの場となっています。

#### 4 活動の内容

エコ園芸班では、「園芸作業」（花を使った製品作りを含む）と「エコ作業」（アルミ缶のリサイクル作業）の2つの作業に取り組んでいます。年間の計画は、およそ以下の表のように取り組んでいます。天候や時期、生徒の実態等によって柔軟に変更しながら学習を計画し、生徒の力を伸ばしています。

	園芸作業	エコ作業
4～5月	種まき	空き缶潰し
6～7月	土作り 苗の植え替え	空き缶回収
9～10月	花の収穫	

	ドライフラワー作り 種まき	
11月	花を使った製品作り	
12月	製品作り、学校祭での販売	
1～2月	土作り	
3月	苗の植え替え	空き缶を業者に出しに行く

## 1) 園芸作業

土作りから始めて花を育て、収穫した花を使った製品作りに取り組んでいます。花は、帝王貝細工、千日紅、かすみ草など、押し花やドライフラワーに加工しやすい品種を種から育てています。花の栽培から加工まで一貫して生徒が関わって取り組むため、生徒にとっても製品ができあがる過程の見通しがもちやすく、愛着をもって花や製品にかかわる姿が見られます。



花の収穫をする様子（帝王貝細工）

花を育てる際に使用する土は、前年度の園芸作業で使用した土や学級菜園で使用した土を寄付してもらい、ふるいにかけて、腐葉土や堆肥を混ぜて再生しています。また、

水やりの際には、水道から水を出して水やりをするだけでなく、雨水を容器にためて花の水やりに活用したり、マルチを張って保水力を高め、水やりの回数を減らしたりしています。生徒にも、植物を育てるためには水が必要なことや、水を大切に使う必要があることについて都度話をしながら作業学習を進めています。

育てた花はドライフラワーや押し花に加工し、アクセサリーやハーバリウムなどの製品を製作しています。製作の際には、花がきれいに見えるように向きを考えたり、花の色の組み合わせを自分で決めたりと意欲的に取り組んでいます。今年度は、キーホルダーやしめ縄、リース、ヘアピンなどを製作しました。年に1度の「きりのこまつり」（学校祭）での販売では、「花がきれい」「かわいくて安い」と沢山の方に喜ばれ、人気の製品が多いです。

また、種から育てた苗が花壇に植えきれずに余った際には、余った苗を学級に配布しています。配布した苗は学級菜園やプランターに植えてもらい、きれいな花を咲かせるなど、学校美化活動の一端を担っています。育てた花を図画工作に使用したり、生活単元学習で活用したりする学級もあります。

## 2) エコ作業

エコ作業では、本校の教職員を中心に回収した空き缶を分別、圧縮し、リサイクル業者に出しています。洗浄やプルタブ取り、仕分け、潰しなどの工程を生徒の実態に応じて分担して取り組んでいます。生徒の特性に応じて業務を分担することで、それぞれが自分の力を発



リサイクル業者でプレス機に缶を入れる

揮しながら達成感を感じることができるように工夫しています。また、リサイクル作業を行う際には、どのような流れで缶がリサイクルされ、その後何に活用されるのかを学ぶ時間も設けています。ゴミだと思っていたものが再利用される過程を知り、「まだ使う方法があるんだ」と驚く生徒も多いです。

圧縮し終えた缶は、地域のリサイクル業者に出しに行きます。その際、プレス機に缶を入れる体験をしたり、缶が更に圧縮される様子を見学したりして、リサ

イクルされる様子を見て実感するための機会としています。

先輩の様子を見て学んだり、後輩にやり方を教えたりして、協力しながら活動に取り組んでいます。

## 5 成果と今後の課題

### 1) 成果

#### ○生徒の活動への関わり方について

園芸作業、エコ作業ともに、すべての工程に生徒が関わって取り組んでいます。経験や実態に応じて業務を分担することで、それぞれが自分の力を発揮しながら達成感を感じて仕事に取り組む姿が見られます。分担にあたっては、細かい作業が得意な生徒や、力仕事に得意な生徒、たくさん手順があっても取り組める生徒など、得意なことを生かした作業ができるようにしています。また、他学年の生徒が関わり合いながら作業に取り組むことで、他者と協力する力や最後までやり遂げる力を育てています。

#### ○活動の地域への広がりや地域との連携について

年に1度の学校祭である「きりのこまつり」では、地域の放課後等デイサービスの方を招待し、来場いただいた方に活動の様子を紹介したり、作った製品を販売したりしています。大事に育てた花を使って作った製品は「かわいくて安価」と多くの方にご好評いただいています。地域のリサイクル業者に空き缶を出す際や、近隣の学校・高齢者施設との交流の際などには、お礼として作った製品を手渡しています。製品を直接渡して喜んでもらう機会は、生徒にとって活動の意義を感じる重要な場となっています。

#### ○現在までの成果について

日常生活の中で「水がもったいない」と水道をしっかりと閉めたり、休み時間に自ら水やりや花の収穫をしたりするなど、物や花を大切にしようとする姿が多く見られます。製品作り際には、「花がきれいに見えるようにしよう」と花を丁寧に優しく扱うなど職業生活に必要な力を育てることもつながっています。製品の販売や交流を通して、コミュニケーション能力も育っています。また、エコ園芸班で仕事をした生徒が高等部卒業後、リ

サイクルの仕事をしたり、花や園芸に興味をもって農園で働いたりしています。

## 2) 今後の課題

現在、空き缶の回収は教職員に声をかけて行っていますが、今後は保護者や地域の方の協力を仰ぎ、缶を沢山集めてリサイクルに貢献するとともに、本校生徒の活動の様子をより知っていただく機会としたいと考えています。また、本校では児童生徒会活動で「みどりの集会」としてプランターに花を植えるなどの学校美化活動に取り組んでいます。生徒会役員の生徒が中心となって行っている活動ですが、エコ園芸班の生徒も連携して花の植え方を教えたり、育てる際の水の再利用について伝えたりするなど、現在取り組んでいることを全校に広げていけるように努力していきたいと思えます。

## 高等学校における実践事例

### 群馬県立尾瀬高等学校

#### 1 活動名 「地元地域の小・中学生と共に自然観察や環境学習を行う活動」

#### 2 環境教育としてのねらい

本校自然環境科は3年間の目標として「人と自然との共生を図ることのできる人」を目指し、環境専門科目（学校設定科目）を中心に、実体験を重視した環境学習に取り組んでいます。そのため、3年間を通じて校外実習を毎月のように実施しています。1年次は講師と共にこれらの場所で自然観察会を行い、2年次は生徒自らが動植物や水質などを対象に自然環境調査を行います。そして、3年次にはこれらの学習成果を踏まえて、普遍的な自然環境の価値や魅力を多くの人に伝えるため、実際に生徒が講師役となって小中学生を対象に自然観察会を実施したり、学校の中で環境学習支援を行ったりしています。

#### 3 学校及び地域の環境の状況

本校は県北東部に位置し、学校周辺には尾瀬や武尊山「水源の森」、日光国立公園（日光白根山）、吹割の滝といった国立公園や国指定の天然記念物など豊かな自然環境が多く存在しています。学校が所在する沼田市利根町（旧利根村）と隣接する片品村は両地区をあわせて8,000人程度の住民がおり、小中学校がそれぞれ1校、計4校が存在しています（利根町の中でも本校から離れている多那小中学校は除く）。この4校は片品村、利根町の両地区にとって唯一の義務教育機関であり、特に中学校は（尾瀬地域）連携型中高一貫教育として本校と連携した教育活動を行っております。そのため、中学校卒業後、本校に進学する生徒も相当数います。また、そもそも本校は両地区の住民の熱意によって60年以上前に設立された経緯をもつ高校でもあり（設立時は沼田高校武尊分校、その後、武尊高校として独立し、平成8年に自然環境科を設置し尾瀬高校と改称）、そういった背景からも本校と両地区は切っても切れないほどの関係性を有しています。

#### 4 活動の内容

##### 1) 利根中学校、片品中学校と尾瀬高校が合同で実施する自然観察会

- ① 毎年9月下旬に武尊山「水源の森」で本校自然環境科3年と両中学校2年生がそれぞれ2名ずつ、計6名程度のグループを構成し、ブナやダケカンバ、オオシラビソなどの自然林の中の遊歩道（往復3km）に沿って自然観察会を実施します。この自然観察会は武尊山の自然を楽しむ、武尊山を舞台にブナ林によって形成される豊かな生態系を観察し地域の自然について学び、地域のすばらしさを知る、野外での活動の楽しさを知る、高校生と中学生とで交流を深めるといったことを目的としています。



- ② 毎年 11 月上旬には本校自然環境科 3 年生と中学 1 年生が、それぞれの中学校に隣接する緑地を会場に自然観察会を実施しています。この自然観察会は手つかずの自然林が広がる「水源の森」での自然観察会と異なり、中高生共に身近な自然に触れ、身の回りの環境を知る「身近な自然の再発見」を目的としています。

## 2) 利根小学校と合同で実施する自然観察会、片品小学校と合同で実施する環境学習会

両小学校と一緒に自然観察会や環境学習会においては、高校生にとって、同じ地域に所在しながら、普段接する機会が少ない小学生と共に活動することにより、相互理解を図ること、さらには世代間交流を通してよりよい人格形成を促すことをねらいとしています。また、小学生と一緒に活動することで新しい視点から身近な自然環境への理解を深めたり、地域の魅力に気付いたりすることもねらいとしています。さらに、これまでに学んだ地域の自然環境の価値や魅力について、小学生にも分かりやすく伝えるには工夫が必要となるため、伝える力を育むことにも繋がっています。小学生にとっても、総合的な学習の時間で学習目標としている「地域理解」を深めるための一助となっているようです。



## 3) 総合的な探究の時間の成果としての体験型環境学習会の実施

今年度は 7 月 6 日 (日) に地元の道の駅で生徒の自主企画として尾瀬をテーマにした環境学習カードゲーム「Oze Duel (尾瀬デュエル)」の体験会を実施したほか、7 月 26 日 (土) には学校を会場に、昆虫の生態をテーマにした環境学習会「みんなの知らない昆虫のせかい by 尾瀬高校」(通称: 昆活パーティ) を開催しました。特に後者のイベントでは、地域の小学生を中心に親子で総勢 25 名が参加し、好評をいただきました。

## 5 成果と今後の課題

### 1) 成果

#### ○ 児童・生徒の活動の成長や変容について

高校生は自然観察会を実施する際、環境専門科目の授業内で「プランニングシート」や「ルートマップ」を事前に作成し、自然観察会の本番に備えています。これは、自然観察会を実施する上で大切な「メッセージ」(その題材を通して伝えたい事象)を明確にし、相手の興味関心を高めるための工夫(コミュニケーション、ホスピタリティ、エンターテインメント、専門性)を整理するためのワークシートです。生徒同士で相談を重ね、繰り返しシートを練り直し、実際に自然観察会本番もこのシートを手にしながらか実施しています。このように、あくまで高校生が主体となって自然観察会を企画し、地元地域の小中学生に自然環境の素晴らしさを伝えるようにしています。この一連の流れを年間を通して繰り返し行うことで、自然の価値を相手に伝えるだけでなく、思考力、判断力、表現力、協働力などといった非認知能力がみるみる身に付きました。

自然観察会を終えた後、中学生も高校生も、フィールドノート(野帳)に「ふりかえ

り」として、内省したことを書き留めていますが、中学生の記録からは「身近な自然について、知らないことが多く、学びが多かった」や「高校生が自然観察会を実施していたのが印象的だった」などの記録があり、地域の自然について再認識したり、将来像となる高校生の姿を目の当たりにし、それを理解したりしている様子が分かります。高校生の記録からは「相手の反応が良く、やりがいがあった」や「うまく表現できない場があって悔しい思いをしたので、次はもっと上手に自然の魅力を伝えられるように工夫を重ねたい」などの記録があり、あらゆる気付きを得て、次に活かそうとする意欲がよく現れています。このように、中学生、高校生双方にとって、地域の自然を理解するだけでなく、自己理解にも繋げられ、生徒が様々に影響を受け、多くの意味で変容していることが読み取れます。

先述した「Oze Duel」体験会や「昆活パーティ」はあくまで生徒自らが発案し、実際に地域の小中学生を対象に実施したイベントです。特に後者については、ある生徒が職員に対して「休日の午後から夜の間、校舎を開けて実施したい」と提案し、その熱意が叶って職員がイベントに立ち会い、実現しました。それほどまでに自然（昆虫の生態）の素晴らしさを伝えたいという生徒の思いの現れでもありました。

#### ○ 活動の地域への広がりや地域との連携について

沼田市利根町、片品村の両地区にとって唯一の小中学校と、両地区に唯一ある高校（尾瀬高校）が連携し、「地域の自然環境」をテーマにした自然観察会や環境学習の場を実施することは、それだけで価値があり、とても意義深いものだと考えています。実際に武尊山「水源の森」や吹割の滝など学校の外に出て地域が誇る豊かな自然環境の中で自然観察会を実施する点においても、小中学校、高校の児童生徒全員が地域性を理解することに繋がり、地域に対する親しみや愛着を高める効果もあります。

「Oze Duel」体験会や「昆活パーティ」では小中学生だけでなく、その保護者も一緒になって参加したり、昆虫の生態について詳しい地元のプロフェッショナルにも活動に協力していただいたりと、子どもだけでなく、大人も巻き込んで地域の自然環境について、理解を深めることにも繋がられました。

#### ○ 連携型中高一貫教育としての実績

地元地域の小中学生を対象にした自然観察会について、特に中学生向けの観察会は、連携型中高一貫教育が始まる前（平成 14 年度）から今に至るまで 24 年にわたって毎年、実施されてきました。およそ四半世紀にわたって継続してきたのは、それだけ活動に対する効果が高かったためであるとも考えられます。

## 2) 課題

#### ○ 児童生徒数の減少

利根中学校は令和 9 年度に隣接する沼田市立白沢中学校と統合することが決まっており、連携型中高一貫教育の在り方について見通せない状況があります。また、県内の他地区と同様に、両地区においても小中学生の児童生徒数の減少は著しく、本校の生徒数も減少、県全体として県立高校の在り方について検討が進められています。地域の小

中高校の在り方が問われている最中にはありますが、小学生、中学生、高校生が一緒になって、豊かな自然環境を有するこの地域だからこそ学べる「普遍的な自然環境とその価値」について、継続して実践していきたいと考えています。

少人数だからこそできる地域の自然環境を題材にした体験型の環境教育を今後も積極的に行い、児童生徒が地域への愛着心を高め、自己理解、自己変容の機会となるようにし、あらゆる環境問題に対して主体的に判断し、行動できる地球市民育成の一助となるよう努めていきたいと考えています。